

1-2 特性 材料について

例示 想定される火災リスク等

基本的考え方・点検事項

具体的対応策

<p>植物性屋根材で葺かれている。 檜皮、こけら、茅等の植物性材料</p>	<p>・火災の進展が早く、かつ、一度着火すると鎮火させるのが困難です。このため近隣で火災が発生したら、予め屋根等に放水するなどの<b>延焼防止策</b>を講じましょう。</p>	<p>【延焼防止策】 1) 消火設備により、屋根全体に円滑に放水できるか確認しましょう。 ・円滑に放水できる場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的対応策」へ</p>	<p>1) 次のような対応により、屋根全体に円滑に放水できるように対応を検討しましょう（なお、これらの設備は、実際に屋根面に着火した場合、消防隊が到着するまでの火災拡大防止対策にも利用可能な設備となり有効な設備です）。</p> <p>例・放水銃を設置する。 ・ドレンチャージャーを設置する。 ・屋外消火栓設備を設置する。 (予定される内容・時期： ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑)</p>	<p>□</p>
	<p>2) 屋根を警戒する既存の消火設備は、定期的な点検を実施するとともに、経年劣化等による機能低下が見られないか確認しましょう。 ○機能低下が見られない場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的対応策」へ</p>	<p>□</p>	<p>2) 点検が行われていない場合は、定期的な点検を実施しましょう。 また、機能低下が見られる場合は、点検の結果を踏まえ、業者と相談し、設備を更新するなどの対応を検討しましょう。 (予定される内容・時期： ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑)</p>	<p>□</p>
	<p>3) 屋根を警戒する既存の消火設備を用いた訓練を定期的に行いましょう。 ○訓練を定期的に行っていたら右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的対応策」へ</p>	<p>□</p>	<p>3) 計画を立て、訓練を定期的に行いましょう。 (訓練の実施時期： ○「訓練の実施時期」を記載したら右欄に☑)</p>	<p>□</p>

具体的対応策

基本的考え方・点検事項

例示

特性

<p>・万が一着火した場合に備えて<b>火災の早期覚知</b>にも努めましょう。</p>	<p>【<b>火災の早期覚知</b>】 1) 大規模な屋根を植物性材料で覆っている場合は、屋根を警戒する警報設備が設置されているか確認しましょう。 ○屋根を警戒する警報設備が設置されている場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「<b>具体的対応策</b>」へ</p>	<p>□</p>	<p>1) 次のような対応により、屋根全体を警戒できるよう対応を検討しましょう。 例・赤外線センサー（自動火災報知設備の受信機に接続しないもの）を設置する。 ・炎感知器（自動火災報知設備の受信機に接続するもの）を設置する。 (予定される内容・時期： ) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑ ⇒「予定される内容・時期」が記載できなければ「<b>当面对応策</b>」を記載しましょう。 例・計画を立て定期的な巡回監視を行う。 (当面对応策： ) ○「当面对応策」を記載したら右欄に☑</p>
<p>屋根材料が非可燃性材料で覆かれている。</p>	<p>【<b>保存・管理</b>】 1) 屋根に毀損箇所がないか、点検を実施しましょう。 ○点検を実施したら右欄に☑ ⇒点検を実施したら「<b>具体的対応策</b>」へ</p>	<p>□</p>	<p>1) 毀損箇所を修理しましょう。 (予定される内容・時期： ) ○修理の「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑ ⇒修理の「予定される内容・時期」が記載できない場合は、「<b>当面对応策</b>」を記載しましょう。 (当面对応策： ) ○「当面对応策」を記載したら右欄に☑</p>
<p>瓦、銅板等の不燃材料</p>	<p>・万が一着火した場合、<b>初期消火対策</b>を徹底しましょう。</p>	<p>□</p>	<p>1) 点検が行われていない場合は、定期的な点検を実施しましょう。 また、機能低下が見られる場合は、点検の結果を踏まえ、業者と相談し、設備を更新するなどの対応を検討しましょう。 (予定される内容・時期： ) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑</p>

特性		例示		想定される火災リスク等		基本的考え方・点検事項		具体的な対応策	
外壁が可燃性材料(主に木材)である。	真壁造、軒葺の木部現し、下見板張り、木造の土台、縁	・放火等による外周部の火災の可能性が高い。	・歴史的な建造物で用いられる材料の多くは木材で着火しやすく、総じて火災に対して脆弱です。このため <b>日常的な火気管理、出火防止策</b> に力を入れましょう。	2) 屋根を警戒する既存の消火設備を用いた訓練を定期的に行いましょう。 ○訓練を定期的に行っていたら右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	2) 計画を立て、訓練を定期的に行いましょう。 (訓練の実施時期) ○「訓練の実施時期」を記載したら右欄に☑	【日常的な火気管理、出火防止策】 1) 火気の管理を徹底するため、たばこ、たき火、燈明・ろうそく・線香等、火気利用の際に確認するべき項目についての点検表を策定し、点検を実施しましょう。 ○確認項目を定めた点検表を策定し、点検表に基づき点検を実施した場合は右欄に☑ ⇒点検表を策定していない、又は点検をしていない場合は「具体的な対応策」へ	1) 火気管理に関する点検表を策定し、点検表に基づき点検を実施しましょう。 ○点検表を策定し、点検を実施したら右欄に☑	1) 次のような対応により、外周部全体を警戒できるような対応を検討しましょう。 例・赤外線センサー(自動火災報知設備の受信機に接続しないもの)を設置する。 ・炎感知器(自動火災報知設備の受信機に接続するもの)を設置する。 (予定される内容・時期) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑ ⇒「予定される内容・時期」が記載できなければ「当面の対応策」を記載しましょう。 例・計画を立て定期的な巡回監視を行う。 (当面の対応策) ○「当面の対応策」を記載したら右欄に☑	
		・外部での火の不始末による失火の発生や放火の対象となり得ることから、失火、放火による火災発生を防ぎ、外周部を警戒するように <b>火災の早期発見、初期消火対策</b> を徹底しましょう。	【火災の早期発見】 1) 外周部を警戒する警報設備が設置されているか確認しましょう。 ○外周部を警戒する警報設備が設置されている場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	【初期消火対策】 1) 既存の消火設備により、建物の外壁全体に円滑に放水できるか確認しましょう。 ○円滑に放水できる場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	1) 次のような対応により、建物の外壁全体に円滑に放水できるような対応を検討しましょう(なお、これらの設備は、実際に建物に延焼した場合においても、消防隊が到着するまでの火災拡大防止対策にも利用可能な設備となり有効な設備です)。 例・放水銃を設置する。 ・ドレンチャージャーを設置する。 ・屋外消火栓設備を設置する。 (予定される内容・時期) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑				

特性		例示		想定される火災リスク等		基本的考え方、点検事項		具体的な対応策	
内装等が可燃性材料（文化財の一部をなす襖、絨毯、カーテン、壁紙、木製建具等）である。	木製の建具、可燃性の壁紙や絨毯、木製の床、畳	・失火による内部火災の危険性が高い。	・日常的な火気管理を徹底し、出火を防止しよう。	2) 既存の消火設備は、定期的な点検を実施するとともに、経年劣化等による機能低下が見られないか確認しよう。 ○機能低下が見られない場合は右欄に☑ ⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ	2) 点検が行われていない場合は、定期的な点検を実施しよう。 また、機能低下が見られる場合は、点検の結果を踏まえ、業者と相談し、設備を更新するなどの対応を検討しよう。 (予定される内容・時期： ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑ 3) 計画を立て、訓練を定期的に行いましょう。 (訓練の実施時期： ○「訓練の実施時期」を記載したら右欄に☑				
2) 敷地特性について	指定建物の周囲に建物が建て詰まり、周囲に消防活動ができる空地が少ない。	・消防活動用の空地が確保できない、又は消火栓の周囲に障害物があると消防活動が遅れが生じ、火災が拡大する可能性が高い。	【消防活動の場所の確認】 1) 消防本部、消防団、自主防災組織等の協力を得ながら敷地内の公設及び私設の消火栓設備について、それらを利用する者同士で確認しよう。また、火災時に迅速に使用できるような障害物となる物品の除去や車両の停車位置などを確認しよう。 ○関係者と確認し、問題なければ右欄に☑ ⇒関係者と確認していない場合、又は確認し、問題があった場合は「具体的な対応策」へ	1) 火気管理に関する点検表を策定し、点検表に基づき点検を実施しよう。 ○点検表を策定し、点検を実施したら右欄に☑	1) 消防本部、消防団、自主防災組織等の協力を得ながら敷地内の公設及び私設の消火栓設備について、それらを利用する者同士で確認しよう。また、火災時に迅速に使用できるような障害物となる物品の除去や車両の停車位置などを確認しよう。 ○関係者と確認し、問題なければ右欄に☑ ⇒関係者と確認していない場合、又は確認し、問題があった場合は「具体的な対応策」へ				

例示		基本的考え方・点検事項		具体的な対応策	
<p>特性 3) 立地特性について</p>					
<p>密集市街地にある。</p> <p>近隣家屋に密接している。</p> <p>周辺市街地は幅員の狭い道路が多い。</p>	<p>・隣地での火災による延焼の可能性が高い。</p> <p>・大規模市街地火災の可能性もある。</p>	<p>・周辺市街地からの延焼を食い止めるため、道路や公園等のまとまった<b>敷地周囲の空地の整備、不燃化</b>を進めよう。</p> <p>○既に延焼防止策となる空地が確保されている、又は周囲の建物の不燃化が進められている場合は「具体的な対応策」へ</p>	<p>【敷地周囲の空地の確保、不燃化】</p> <p>1) 敷地周囲の空地の確保や、周囲の建物の不燃化を進めよう。</p> <p>○既に延焼防止策となる空地が確保されている、又は周囲の建物の不燃化が進められている場合は「具体的な対応策」へ</p>	<p>1) 延焼を食い止めるための道路や公園等の空地の必要性について、市区町村の都市整備部局や周辺住民等と確認し、必要な整備内容等について協議しましょう。また、敷地周囲の住宅の建替や改修の可能性について、周辺住民や市区町村の都市整備部局等に確認し、必要な整備内容等について協議しましょう。</p> <p>○関係者と協議できたら右欄に☑</p>	<p>□</p>
<p>・火災時に消防車両が迅速に到着できるように<b>消防用進入道路を確保</b>しましょう。確保できない場合は消防隊が利用するための<b>消防水利を確保</b>しましょう。</p>	<p>・火災時に消防車両が迅速に到着できるように<b>消防用進入道路を確保</b>されているか、火災時に利用できる水利が確保されているか、関係者と確認しましょう。</p> <p>○それぞれが確保されていれば右欄に☑</p> <p>⇒それぞれが確保されていない場合は「具体的な対応策」へ</p>	<p>【消防用進入道路の確保、又は消防水利の確保】</p> <p>1) 敷地への消防用進入道路が確保されているか、関係者と確認しましょう。</p> <p>○それぞれが確保されていれば右欄に☑</p> <p>⇒それぞれが確保されていない場合は「具体的な対応策」へ</p>	<p>1) 火災時に消防機関がどのようにして消火活動を行うか確認してもらい、対応策を協議しましょう（火災発生時の消防活動計画等）。また、消防用進入道路や消防水利の確保を進めるため、消防機関や市区町村の都市整備部局と必要な整備内容等について協議しましょう。</p> <p>○関係者と協議できたら右欄に☑</p>	<p>□</p>	
<p>・市区町村等の行政機関の協力を得ながら、自主防災組織等と連携を図り、<b>面的に防災力を強化</b>することが重要です。</p>	<p>【面的防災力の強化】</p> <p>1) 自主防災組織や近隣の人々と防火対策や災害時の共助体制等について協議していただけますか。</p> <p>○既に協議していただければ右欄に☑</p> <p>⇒協議していただけない場合は「具体的な対応策」へ</p>	<p>1) 自主防災組織や近隣の人々と防火対策や災害時の共助体制等について協議していただけますか。</p> <p>○既に協議していただければ右欄に☑</p> <p>⇒協議していただけない場合は「具体的な対応策」へ</p>	<p><b>下記、2つとも確認しましょう。</b></p> <p>1) 現状を確認し、自主防災組織や近隣の人々と課題等を共有しましょう。</p> <p>○共有できたら右欄に☑</p> <p>⇒また次のような対応により、自主防災組織や近隣の人々と火災情報等を共有できるように対応も検討しましょう。</p> <p>例 ・屋外警報装置等を設置する。 ・地域で火災警報を共有できる機器・システムを導入する。 (予定される内容・時期： ) ○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑</p>	<p>□</p>	
<p>・隣地での火災による延焼の可能性が高い。</p> <p>・大規模市街地火災の可能性もある。</p>	<p>2) 自主防災組織や近隣の人々と定期的に防災訓練（初期消火訓練、通報訓練、避難訓練等）を実施していただけますか。</p> <p>○既に実施していただければ右欄に☑</p> <p>⇒防災訓練を実施していただけない場合は「具体的な対応策」へ</p>	<p>2) 自主防災組織や近隣の人々と定期的に防災訓練（初期消火訓練、通報訓練、避難訓練等）を実施していただけますか。</p> <p>○既に実施していただければ右欄に☑</p> <p>⇒防災訓練を実施していただけない場合は「具体的な対応策」へ</p>	<p>2) 現状を確認し、自主防災組織や近隣の人々と課題を共有し、自主防災訓練を実施しましょう</p> <p>○防災訓練を実施したら右欄に☑</p> <p>⇒ただちに実施できない場合は、防災訓練の実施時期を記載しましょう。</p> <p>(訓練の実施時期： ) ○「訓練の実施時期」を記載したら右欄に☑</p>	<p>□</p>	

特性	例示	想定される火災リスク等	基本的考え方・点検事項	具体的な対応策
			<p>3) 既存の消火設備により、建物の外周部全体に円滑に放水できるか確認しましょう。</p> <p>○円滑に放水できる場合は右欄に☑</p> <p>⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ</p>	<p>3) 次のような対応により、建物外周部全体に円滑に放水できるように対応を検討しましょう（なお、これらの設備は、実際に建物に延焼した場合においても、消防隊が到着するまでの火災拡大防止対策にも利用可能な設備となり有効な設備です）。</p> <p>例・放水銃を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドレンチャージャーを設置する。</li> <li>・屋外消火栓設備を設置する。</li> </ul> <p>(予定される内容・時期： )</p> <p>○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑</p>
			<p>4) 既存の消火設備は、定期的な点検を実施するとともに、経年劣化等による機能低下が見られないか確認しましょう。</p> <p>○機能低下が見られない場合は右欄に☑</p> <p>⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ</p>	<p>4) 点検が行われていない場合は、定期的な点検を実施しましょう。</p> <p>また、機能低下が見られる場合は、点検の結果を踏まえ、業者と相談し、設備を更新するなどの対応を検討しましょう。</p> <p>(予定される内容・時期： )</p> <p>○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑</p>
			<p>5) 防災マップ等による火災危険箇所の周知はなされていますか。</p> <p>○既に周知されていれば右欄に☑</p> <p>⇒周知がなされていない場合は「具体的な対応策」へ</p>	<p>5) 下記事項を念頭に、市区町村等の都市整備部局等と協議し、防災上の危険箇所を確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲に空地が確保できているか(火除地の確保)</li> <li>・周辺市街地の防火対策の強化(道路や公園等の整備による延焼の防止・遮断、消防車両等の進入路となる道路の整備改善、老朽化住宅の建替、住民が使える消火設備の設置、消防水利の確保・整備等)</li> </ul> <p>○危険箇所を確認したら右欄に☑</p>
	<p>・周辺市街地で発生した火災からの守るために延焼防止策を講じましょう。</p>		<p><b>【延焼防止策】</b></p> <p>1) 既存の消火設備により、建物の外周部全体に円滑に放水できるか確認しましょう。</p> <p>○円滑に放水できる場合は右欄に☑</p> <p>⇒上記以外の場合は「具体的な対応策」へ</p>	<p>1) 次のような対応により、建物外周部全体に円滑に放水できるように対応を検討しましょう（なお、これらの設備は、実際に建物に延焼した場合、消防隊が到着するまでの火災拡大防止対策にも利用可能な設備となり有効な設備です）。</p> <p>例・放水銃を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドレンチャージャーを設置する。</li> <li>・屋外消火栓設備を設置する。</li> </ul> <p>(予定される内容・時期： )</p> <p>○「予定される内容・時期」を記載したら右欄に☑</p>